

都市再生整備計画 事後評価シート
中央林間地区

令和5年3月

神奈川県大和市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県	市町村名	大和市	地区名	中央林間地区		面積	28.1 ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	2,672.0百万円	国費率	0.5	

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 (仮称)旧市営住宅緑野住宅跡地公園(公園整備)、高次都市施設:地域交流センター(旧市営緑野住宅跡地)、中心拠点誘導施設(教育文化施設):図書館、既存建造物活用事業(高次都市施設):子育て世代活動支援センター、高質空間形成施設:緑化施設等(市道中央林間121号線、84号線、90号線、143号線) 【関連事業】鉄道駅総合改善事業(形成計画事業):コミュニティステーション化「小田急中央林間駅」(駅ホーム拡幅、改札口新設、生活支援機能(保育施設)整備)							
	提案事業		なし							
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業		基幹事業		柿の木通り公園事業、駅前広場事業、旧市営緑野住宅跡地(自転車駐輪場)事業、市道中央林間10号線事業、市道中央林間41号線事業		駅前広場等が先送りとなったため。		事業の削除に伴い、指標「駅前広場における歩行者交通量」を削除。	
	提案事業		なし							
新たに追加した事業		基幹事業		なし						
提案事業		なし								
交付期間の変更		当初	H29年度～H31年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし				
変更			平成29年度～令和3年度							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	中央林間駅利用者数	人/日	99,407	H26	101,300	R3		82,835	×	あり なし ●	外出の自粛など新型コロナウイルスの影響やテレワークなどの生活様式の変化により鉄道の利用が落ち込んだため、目標達成に至らなかった。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っておらず、早期での目標達成は難しいが、駅利用者数は増加傾向が見られる。	
指標2	中央林間地区住民の定住の意向	%	54.1	H26	58.0	R3		64.9	○	あり なし	教育文化機能と子育て支援機能の充実、歩行空間の改善により、定住意向と相関関係があることがうかがえる。市民意識調査の中央林間地区におけるまちづくりの分野の満足度や地域への愛着度が高い結果となった。そのため、地域住民の定住意向が高まったと考えられる。	
指標3										あり なし		
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	市民交流拠点ポラリスの利用人数	人/年	0	H28				179,482			市民交流拠点ポラリスでは、施設予約で把握している利用人数の他、学生を中心に幅広い世代の「居場所」になっているため、整備に際して設定した想定値を大きく上回る利用人数となった。	
その他の数値指標2	中央林間図書館の図書貸出冊数	冊/年	0	H28				361,747			中央林間図書館では、親子連れで利用する周辺住民の方や、市外の利用者も多いなど、利便性が高いことが伺える。そのため、整備に際して設定した想定値を大きく上回る図書貸出冊数となった。	
その他の数値指標3	市内保育所等のうち一時預かり利用者数について大和市子育て支援施設を占める割合	%	0	H28				59.4			駅前の東急中央林間ビル内という立地もあり、利便性が高いことから、他の地域と比べて、多くの一時預かり利用者を支えている。また、市北部は、今後も保育需要が見込まれる地域であるため、引き続き、多くの利用が見込まれる。	

4)定性的な効果発現状況
 ・この計画の中心的事業である高次都市施設(地域交流センター:旧市営緑野住宅跡地拠点施設)として整備した市民交流拠点ポラリスは、会議室のほか室内スポーツ施設を備え、文化・スポーツの面から「健康都市」を支えている。また、誰でも利用できる「市民交流スペース」、乳幼児親子がくつろげる「親子交流サロン」・「親子交流テラス」・「プレイルーム」を備えており、幅広い世代の市民の居場所づくりにも貢献していると考えている。
 ・高質空間形成施設(緑化施設等)の修景整備で石畳のような舗装としたことで、副次的効果により車での通行を控える方が多く、結果、安全で快適な歩行環境の創出につながっている。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
官民連携による取組	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

中央林間地区(神奈川県大和市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
市北部の地域拠点にふさわしい健康で快適な生活環境を構築し、文化的な都市生活をおくることができるまちを実現する。 ・多世代が健康で豊かに交流し、子育てしやすいまち ・駅を中心とした便利で安全なまち ・人口及び人口バランスを維持し、誰もがいつまでも暮らしやすいまち	中央林間駅利用者数	単位: 人/日	99,407 H26	101,300 R3	82,835 R3
	中央林間地区住民の定住の意向	単位: %	54.1 H26	58.0 R3	64.9 R3
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R

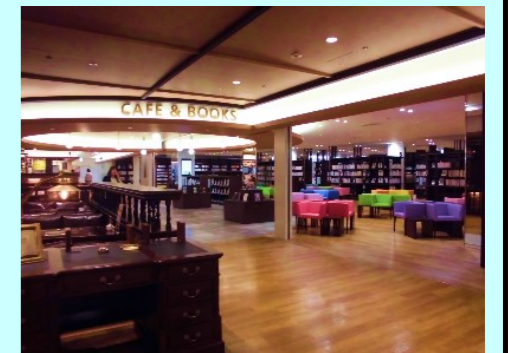
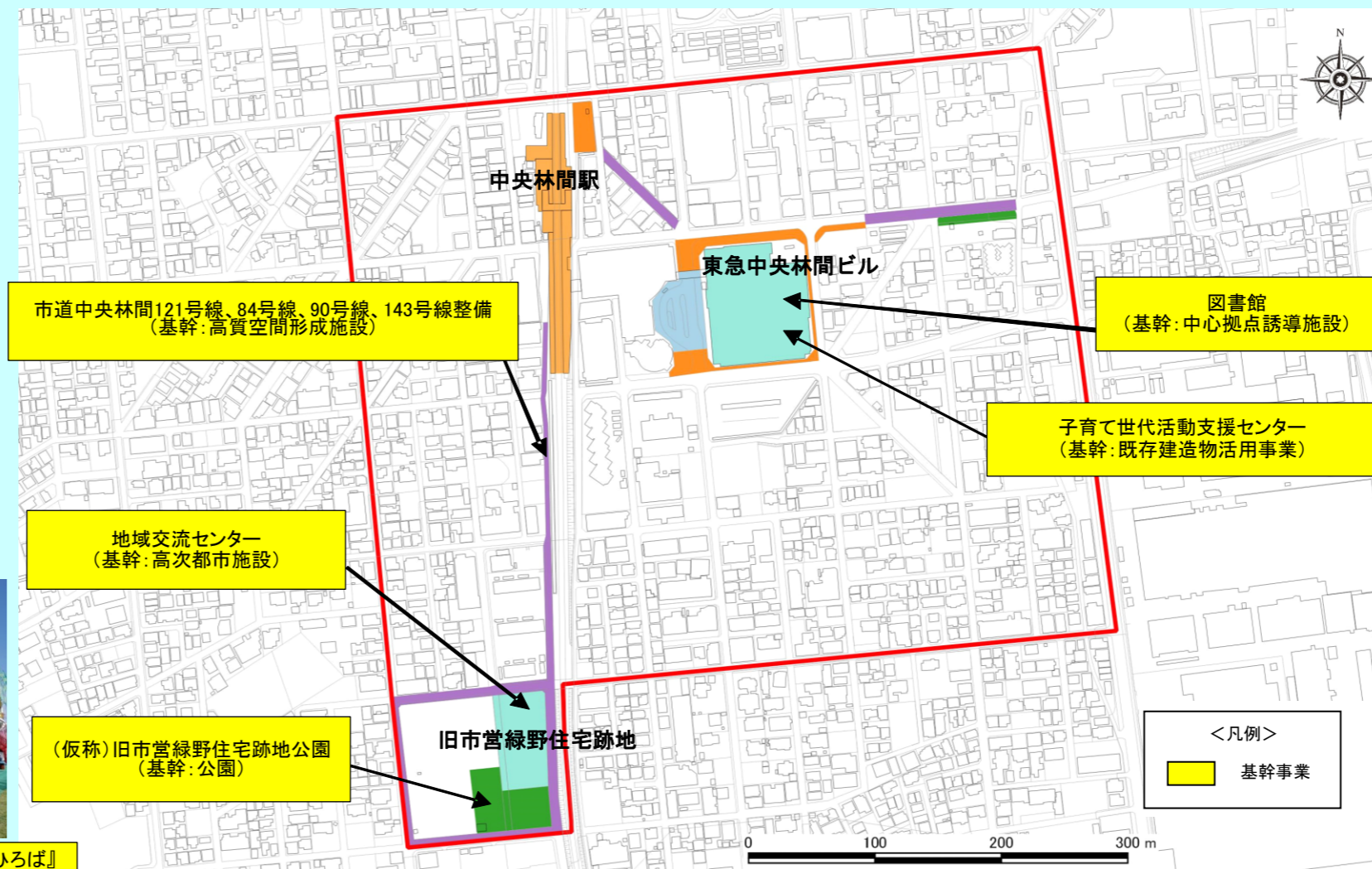


地域交流センター『市民交流拠点ポラリス』



市道中央林間121号線整備

(仮称)旧市営緑野住宅跡地公園『星の子ひろば』



図書館『中央林間図書館』



子育て世代活動支援センター『大和市子育て支援施設きらきらぼし』

まちの課題の変化	・中央林間地区を中心とする市北部では、多世代や地域交流の場となる教育文化施設が不足していたため、高次都市施設(地域交流センター:旧市営緑野住宅跡地拠点施設)として市民交流拠点ポラリスを、中心拠点誘導施設(教育文化施設:図書館)として中央林間図書館を整備した結果、市民意識調査でも、中央林間地区の「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」の満足度が増加した。 ・また、子育て支援の場も不足していたため、既存建造物活用事業(高次都市:子育て世代活動支援センター)として大和市子育て支援施設きらきらぼしを整備した結果、同調査で「こどもを生きやすい環境づくりに関すること」の満足度が増加した。 ・公園(旧市営緑野住宅跡地公園「星の子ひろば」、高質空間形成施設(市道中央林間121号線、84号線、90号線、143号線)を整備し、多世代、地域交流の場の創出及び歩行環境の改善が図られた結果、同調査で「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」への満足度が増加した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	中央林間地区街づくりビジョンの基本理念「緑と文化に包まれた誰もが住みたいと思えるまち中央林間」を目指して、地域と民間事業者と連携した取組を進めていく必要がある。 ゆとりある歩行空間やイベント空間を有した駅前広場の整備、駅と居住地および拠点施設を結ぶ交通環境の整備、中央林間地区の北東部にある内山地区の段階的な市街化区域編入による計画的な市街地整備など、今後も、引き続き、駅を中心とした便利で安全なまちを推進しつつ、多世代が交流し、健康で豊かなまちづくりにも取り組み、「北のまち」の地域拠点としての更なる充実を目指す。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		【指標】 ・駅前広場における歩行者交通量 ・中央林間駅利用者数 ・中央林間地区住民の定住の意向	【指標】 ・中央林間駅利用者数 ・中央林間地区住民の定住の意向	事業の削除に伴い、指標「駅前広場における歩行者交通量」を削除。
C. 目標値		●			
D. その他（計画期間）	●		【計画期間】 H29年度～H31年度	【計画期間】 平成29年度～令和3年度	既存建造物活用事業の整備実施期間や周辺道路の交通協議等の調整に時間を要したため、計画期間を延伸。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	—								
公園	柿の木通り公園	27	400㎡	0	0㎡	令和3年に計画変更して削除。民間土地所有者との協議で先送りとなったため、事業中止。	影響なし	—	—
公園	(仮称)旧市営緑野住宅跡地公園	144	2,200㎡	144	2,200㎡	なし	-	●	
河川	—								
下水道	—								
駐車場有効利用システム	—								
地域生活基盤施設(広場)	駅前広場	68	2,750㎡	0	0㎡	令和3年に計画変更して削除。民間土地所有者との協議で先送りとなったため、事業中止。	事業の削除に伴い、指標「駅前広場における歩行者交通量」を削除。	—	—
地域生活基盤施設(自転車駐輪場)	旧市営緑野住宅跡地	18	200㎡	0	0㎡	令和3年に計画変更して削除。駅前広場等の整備の先送りに伴い事業中止。	影響なし	—	—
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間10号線	13	150m	0	0㎡	令和3年に計画変更して削除。駅前広場等の整備の先送りに伴い事業中止。	影響なし	—	—
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間41号線	9	100m	0	0㎡	令和3年に計画変更して削除。駅前広場等の整備の先送りに伴い事業中止。	影響なし	—	—
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間121号線	48	465m	49	465m	事業費の微増。	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間84号線	10	150m	10	150m	なし	-	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間90号線	10	150m	10	150m	なし	-	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	市道中央林間143号線	10	150m	10	150m	なし	-	●	
高次都市施設(地域交流センター)	旧市営緑野住宅跡地	2,600	3,845㎡	2,384	3,845㎡	コスト削減による事業費減。	影響なし	●	
誘導施設 教育文化施設	図書館	72	691㎡	462	691㎡	事業費増。	影響なし	●	
既存建造物活用 事業(高次都市:子育て世代活動支援センター)	東急中央林間ビル内拠点施設	107	232㎡	148	232㎡	事業費の微増。	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業	—								
土地区画整理事業(都市再生)	—								
住宅市街地 総合整備事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	—								
バリアフリー環境整備事業	—								
優良建築物等整備事業	—								
住宅市街地総合整備事業	—								
街なみ環境整備事業	—								
住宅地区改良事業等	—								
都心共同住宅供給事業	—								
公営住宅等整備	—								
都市再生住宅等整備	—								
防災街区整備事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	中央林間駅利用者数	人/日	—	—	99,407	H26	101,300	R3	モニタリング		モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ● 82,835	事後評価	×		
指標2	中央林間地区住民の定住の意向	%	—	—	54.1	H26	58.0	R3	モニタリング		モニタリング			○
									事後評価	確定見込み ● 64.9	事後評価	○		
指標3									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み	事後評価			
指標4									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み	事後評価			
指標5									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	外出の自粛など新型コロナウイルスの影響やテレワークなどの生活様式の変化により鉄道の利用が落ち込んでいるため、目標達成に至らなかった。	新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っておらず、早期での目標達成は難しいが、駅利用者数は増加傾向が見られる。
指標2	教育文化機能と子育て支援機能の充実、歩行空間の改善により、定住意向と相関関係があることが伺える、市民意識調査の中央林間地区におけるまちづくりの分野の満足度や地域への愛着度が高い結果となった。そのため、想定以上に地域住民の定住意向が高まり、期待以上の成果をあげることができた。	—
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度	基準年度				
その他の数値指標1	市民交流拠点ポラリスの利用人数	人/年	—	—	0	H28	モニタリング	整備に際して設定した想定値と比較し効果発現の計測するため。	・近隣の類似施設の利用状況から算出(林間学習センターのH24~H26の平均利用者数平均) 【年間95,000人(見込み)】
							事後評価		
その他の数値指標2	中央林間図書館の図書貸出冊数	冊/年	—	—	0	H28	モニタリング	整備に際して設定した想定値と比較し効果発現の計測するため。	・類似施設の利用状況から算出(渋谷図書館のH24~H26の図書貸出冊数) 【年間168,000冊(見込み)】
							事後評価		
その他の数値指標3	市内保育所等のうち一時預かり利用者数について大和市子育て支援施設きらぼしが占める割合	%	—	—	0	H28	モニタリング	中央林間地区を中心とする市北部に不足していた子育て支援の場として整備することで、市内全域に及ぼす影響を計測するため。	—
							事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・この計画の中心的事業である高次都市施設(地域交流センター:旧市営緑野住宅跡地拠点施設)として整備した市民交流拠点ポラリスは、会議室のほか室内スポーツ施設を備え、文化・スポーツの面から「健康都市」を支えている。また、誰でも利用できる「市民交流スペース」をはじめ、乳幼児親子がくつろげる「親子交流サロン」・「親子交流テラス」・「プレイルーム」などを備えており、幅広い世代の市民の居場所づくりにも貢献していると考えている。
 ・高質空間形成施設の修景整備で良好な景観となり、副次的効果として車での通行を控える方が多く、結果、安全で快適な歩行環境の創出につながっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
—	予定どおり実施した	該当なし		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課	街づくり総務課、図書・学び交流課、ほいく課、みどり公園課、市民課、道路安全対策課、街づくり推進課	令和4年7月	街づくり施設部街づくり総務課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3				
指標名		中央林間地区住民の定住の意向	市民交流拠点ポラリスの利用人数	中央林間図書館の図書貸出冊数	市内保育所等のうち一時預かり利用者数についてきらきらぼしが占める割合				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園((仮称)旧市営緑野住宅跡地公園)	○	教育文化機能と子育て支援機能の充実、歩行空間の改善が、指標の達成につながったと思われる。また、市民意識調査において、定住意向と相関関係が伺える、中央林間地区におけるまちづくりの分野での満足度や地域への愛着度について、高い結果となった。これにより、地域住民の定住意向が想定以上に高まったのではないかと思われる。	○	高次都市施設として整備した市民交流拠点ポラリスでは、施設予約で把握している利用人数の他、学生を中心に幅広い世代の“居場所”になっている。このため、整備に際して設定した目標値を大きく上回る利用人数となったと思われる。	○	誘導施設として整備した中央林間図書館では、親子連れなど周辺住民の方だけでなく、市外の利用者も多いことから、利便性が高いことが伺える。そのため、整備に際して設定した目標値を大きく上回る図書貸出冊数となったと思われる。	○	市北部に不足していた子育て支援の場として既存建造物活用事業で整備した大和市子育て支援施設きらきらぼしは、駅前の東急中央林間ビル内という立地もあり、利便性が高いことから、他の地域と比べて、多くの一時預かり利用者数を支えている。また、市北部は、今後も保育需要が見込まれる地域であるため、引き続き、多くの利用が予見される。
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間121号線	○							
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間84号線	○							
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間90号線	○							
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間143号線	○							
	高次都市施設(地域交流センター)	○							
	誘導施設 教育文化施設(図書館)	○							
既存建造物活用事業(高次都市:子育て世代活動支援センター)	○								
提案事業									
関連事業	鉄道駅総合改善事業(改札口、ホーム拡幅、生活支援機能) 小田急中央林間駅	○		○		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標2	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
	整備した施設を活用し、地域の賑わいも創出できるよう、地域や民間事業者との連携を図った取り組みなどを検討する。	教育文化機能の充実が維持できるよう、地域のニーズにあった市民交流拠点ポラリスの維持管理を行う。	教育文化機能の充実が維持できるよう、地域のニーズにあった中央林間図書館の維持管理を行う。	地域の状況把握しながら、地域のニーズにあった子育て支援機能の維持管理を行う。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標○			指標○			指標○		
指標名		中央林間駅利用者数			—			—			—		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園((仮称)旧市宮緑野住宅跡地公園)	△	外出の自粛など新型コロナウイルスの影響やテレワークなどの生活様式の変化により鉄道の利用が落ち込んだため、目標達成に至らなかった。	Ⅲ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間121号線	△											
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間84号線	△											
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間90号線	△											
	高質空間形成施設(緑化施設等) 市道中央林間143号線	△											
	高次都市施設(地域交流センター)	△											
	誘導施設 教育文化施設(図書館)	△											
	既存建造物活用事業(高次都市:子育て世代活動支援センター)	△											
提案事業													
関連事業	鉄道駅総合改善事業(改札口、ホーム拡幅、生活支援機能)	△											
	小田急中央林間駅												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っておらず、早期での目標達成は難しいが、駅利用者数は増加傾向が見られる。	—	—	—
------------------	---	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課	街づくり総務課、図書・学び交流課、ほいく課、みどり公園課、市民課、道路安全対策課、街づくり推進課	令和4年8月～9月	街づくり施設部街づくり総務課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
多世代や地域交流の場となる 教育文化機能の充実	・高次都市施設として整備した市民交流拠点ポラリスや誘導施設として整備した中央林間図書館では、整備に際して目標設定した施設利用者数や図書貸出冊数を大きく上回るなど、教育文化機能の充実が図られた。市民意識調査における、中央林間地区の「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」への満足度についても大きく増加している。	—	—
子育て支援機能の充実	・既存建造物活用事業で整備した大和市子育て支援施設きらきらぼしでは、送迎ステーション事業、一時預かり事業、子育て相談事業の機能を担い、0歳から5歳までの幅広い年齢の子どもが集う、交流の場となるなど、地域の子育て支援機能の充実が図られた。市民意識調査における、中央林間地区の「子どもを生きやすい環境づくりに関すること」への満足度についても増加している。	—	
駅周辺における交通体系の見直しと歩行環境の改善	・高質空間形成施設の整備(市道中央林間121号線、84号線、90号線、143号線)により、歩行環境の改善が図られた。市民意識調査における、中央林間地区の「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」への満足度についても増加している。	・駅周辺における交通体系の見直しについて、市北部の交通結節点として中央林間駅を中心に、安全性やまちのにぎわいに配慮し、車中心から人が中心となる社会に対応したまちづくりを進めるため、安全性の確保とにぎわいづくりに寄与する歩行空間にゆとりのある駅前広場の整備などの検討が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・中央林間地区のニーズや状況に応じた教育文化機能や子育て支援機能の維持確保	・市北部の地域拠点として、健康で快適な生活環境を構築し、文化的な都市生活をおくるための教育文化機能や子育て支援機能を継続的に確保する。	・教育文化機能や子育て支援機能についての、継続的な地域における状況及びニーズの把握
	・市民交流拠点ポラリス、中央林間図書館、大和市子育て支援施設きらきらぼし等の整備した施設の利活用と地域のにぎわい創出	・整備を行った施設を活用し、地域の賑わいの創出につながるよう、地域や民間事業者との連携を図った取り組みなどを検討する。	・市民交流拠点ポラリス、中央林間図書館、大和市子育て支援施設きらきらぼし等を活用した地域や民間事業者と連携した取り組み

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	ゆとりある歩行空間の創出	・市北部の交通結節点として、中央林間駅を中心に安全性やまちのにぎわいに配慮し、車中心から人が中心となる社会に対応したまちづくりを進める。	・人の移動の実態把握や、駅東側のゆとりある歩行空間の創出などの検討
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

中央林間地区街づくりビジョンの基本理念「緑と文化に包まれた誰もが住みたいと思えるまち中央林間」を目指して、地域と民間事業者と連携した取り組みを進めていくことが必要である。ゆとりある歩行空間やイベント空間を有した駅前広場の整備、駅と居住地および拠点施設を結ぶ交通環境の整備、中央林間地区の北東部にある内山地区の段階的な市街化区域編入による計画的な市街地整備など、今後も、引き続き、駅を中心とした便利で安全なまちを推進しつつ、多世代が交流し、健康で豊かなまちづくりにも取り組み、「北のまち」の地域拠点としての更なる充実を目指す。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
										予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	中央林間駅利用者数	人/日	99,407	H26	101,300	R3	確定 ●	82,835	×	あり			
							見込み			なし ●			
指標2	中央林間地区住民の定住の意向	%	54.1	H26	58.0	R3	確定 ●	64.9	○	あり			
							見込み			なし			
指標3				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
指標4				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
指標5				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標1	市民交流拠点ポラリスの利用人数	人/年	0	H28			確定 ●	179,482					
その他の数値指標2	中央林間図書館の図書貸出冊数	冊/年	0	H28			確定 ●	361,747					
							見込み						
その他の数値指標3	市内保育所等のうち一時預かり利用者数について大和市子育て支援施設きらぼしが占める割合	%	0	H28			確定 ●	59.4					
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	事業を評価する指標の数が少なく、新型コロナウイルスによる影響など、外的な要因で予見が不可能な要因が発生した場合には、適切に事業を評価できるよう影響を受けにくい新たな指標に変更、または追加するなどの検討を行う必要があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

—

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年11月1日～11月30日	令和4年11月1日～11月30日	担当課への電話、 FAX、電子申請	街づくり施設部 街づくり総務課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	街づくり総務課窓口、市民交流拠点ポラリス、中央林間図書館で縦覧	令和4年11月1日～11月30日	令和4年11月1日～11月30日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	黒石いずみ(元青山学院大学総合文化政策学部教授) 杉崎和久(法政大学法学部教授) ホーテス シュテファン(中央大学理工学部教授)	令和4年9月 令和5年2月	街づくり施設部 街づくり総務課	地方自治法 第138条の4第3項	街づくり推進会議を活用
その他の委員	コンサルタント 2名、関係団体 2名、街づくり組織 1名、 街づくりサポーター 1名、公募市民 2名				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	概ね妥当であると判断された。
	成果の評価	その他の数値指標2「中央林間図書館の図書貸出冊数」の想定が易しかったのではないかと。
	実施過程の評価	概ね妥当であると認められた。
	効果発現要因の整理	概ね妥当であると認められた。
	事後評価原案の公表の妥当性	概ね妥当であると認められた。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	概ね妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし。
	フォローアップ	特になし。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・整備事業は素晴らしい結果で、満足している。 ・中央林間図書館は、民間施設に入ったことで利便性が良く、環境も良く、非常に良い居場所になっている。 ・駅周辺の整備について、踏切の拡幅は、人や自転車があふれ、車がなかなか通行できないということもあったが、すっきりとして、素晴らしい。加えて、東口改札の設置で利便性が向上した。 ・ポラリスは、子育て支援という意味で素晴らしい。また、休日には中高生でいっぱいになっている。幅広い世代で利用されており、いい施設が出来たと思っている。 	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
該当なし		
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---